

# 日本建築学会九州支部鹿児島支所＋鹿児島大学工学部建築学科 平成30年度特別講演会のお知らせ

日本建築学会九州支部鹿児島支所 支所長  
本間 俊雄

平素より、日本建築学会九州支部鹿児島支所の事業にご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、この度、平成30年度の鹿児島大学工学部建築学科との共催の定期講演会を下記の通り開催する運びとなりました。この講演会の主旨は、鹿児島地域で最新情報を提供することで、地域の建築に関わる方々の刺激になり、より一層の発展に寄与することです。今年は、建築計画と情報、構造と防災のキーワードで以下の2名の先生をお呼びいたします。先生方には、質問を含めて90分の講演時間をお願いしていますので、設計や研究に対する考え方や最近の仕事内容をじっくりと伺うことができるものと思います。是非、周辺の方々にお声を掛けていただき、皆様でご来場されますようお願い申し上げます。

## 記

1. 日 時 平成30年12月15日土曜日 13:30～16:40
2. 場 所 鹿児島大学稲盛会館ホール <http://www.kagoshima-u.ac.jp/about/k-inamori.pdf>
3. 対 象 建築に興味を持つ皆様（入場無料、先着順）
4. 講演者と講演概要

- (1) 株式会社ダブルネガティブスアーキテクチャー 代表取締役、都市研究室 hclab.  
市川 創太 先生

題 目：「どのように[形]を探すべきだろうか」

概 要： 誤解を恐れずに言えば、建築家は「(広義な)形」によって諸問題を解く立場にあると考えています。建築計画において正解の定義が難しい「形を探すエンジニアリング」には、まだまだアイデアが必要です。やりつくされていないと感じます。計画の問題をどのように「形」の問題として設定したか、どのように設計に必要なソフトウェアを設計したか、インストール、リノベーションから新築設計まで、取り組んでいる案件と共にお話ししたいと思います。

- (2) 東京大学生産技術研究所 教授  
川口 健一 先生

題 目：「安全な天井とは。」

概 要： 阪神大震災から大規模集客施設の地震被害を調査してきたが、倒壊に至った鉄骨屋根構造は一棟もない。反面、天井等の仕上げ材や懸垂設備の落下被害は内部の人々の安全を脅かし、避難施設としての機能も停止させ、空港や駅などの重要施設も機能麻痺に陥ってしまう。では、天井にも耐震補強が必要なのだろうか？実は、天井は地震時だけでなく日常的に落下事故が発生している。安全な天井について一緒に考えてみたい。

問い合わせ先： 鹿児島大学工学部建築学科 日本建築学会九州支部鹿児島支所幹事 横須賀洋平  
yokosuka@aae.kagoshima-u.ac.jp